

研 究 課 題 名	肝疾患関連合併症の発症・再発に関連する因子の検討に関する研究
研 究 の 内 容	<p><b>【目的】</b></p> <p>慢性肝疾患の患者さんを対象に、肝疾患関連合併症（肝細胞癌、食道胃静脈瘤、腹水、肝性脳症など）の発症率・再発率や、それらに関連する因子、ならびに生命予後を明らかにすることを目的としています。これにより、今後の慢性肝疾患診療の質の向上に役立てることを目指します。</p> <p><b>【方法】</b></p> <p>●対象となる患者さん</p> <p>以下の条件を満たす患者さんが対象となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>慢性肝炎または肝硬変と診断された患者さん</li> <li>2010年1月1日から2024年12月31日の間に、名古屋大学医学部附属病院および大垣市民病院等の共同研究機関において通院または入院歴があり、画像検査を受けた18歳以上の方</li> </ul> <p>●利用する検体、カルテ情報</p> <p>本研究では、新たな検体採取は行いません。</p> <p>検体 使用しません（診療または他の研究で使用した余りの検体で保管することに以前同意をいただいたもの）</p> <p>カルテ情報（診療目的で取得された既存情報のみを使用）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者背景：年齢、性別、身長、体重、既往歴、併存疾患、生活習慣、併用薬、治療経過</li> <li>原疾患の診療経過：治療内容、転帰、治療有害事象</li> <li>血液検査： <ul style="list-style-type: none"> <li>血算（白血球、赤血球、ヘモグロビン、血小板など）</li> <li>生化学検査（AST、ALT、ALP、<math>\gamma</math>-GTP、ビリルビン、アルブミン、CRP など）</li> <li>免疫学的検査（IgG、IgA、IgM、自己免疫抗体）</li> <li>腫瘍マーカー（AFP、PIVKA-II）</li> </ul> </li> <li>凝固検査：PT(INR)、APTT</li> <li>画像検査：腹部超音波、CT、MRI、PET</li> <li>内視鏡検査所見</li> <li>肝生検・手術標本を含む病理所見</li> </ul> <p><b>【提供方法】</b> 自施設（※共同研究機関からのデータは、名古屋大学に集約されますが、研究対象者が特定されない形で取り扱われます）</p> <p><b>【利用範囲】</b> 自施設（名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科学）</p>

	<b>【情報管理責任者】</b> 大垣市民病院 安田諭 <b>【拒否機会の保障】</b> 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する
対象疾患	慢性肝炎 肝硬変
研究責任者	消化器内科 安田諭
承認年月	2026 年 1 月

研 究 課 題 名	オシメルチニブ治療における処方データ由来 RDI と実服薬状況の乖離および服薬遵守を支える要因の検討
研 究 の 内 容	<b>【目的】</b> 本研究では、EGFR 遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌におけるオシメルチニブ治療の処方データ由来 RDI と実服薬状況（残薬由来 RDI）の乖離を調査し、服薬遵守を支える要因を検討する。 <b>【方法】</b> ●対象となる患者さん EGFR 遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌の患者さんで、西暦 2016 年 3 月 1 日から西暦 2025 年 12 月 31 日の間に、大垣市民病院にてオシメルチニブの治療を受けた方 ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：臨床所見（年齢、性別、身長、体重、臨床病期）、血液所見（CBC、白血球分画、肝腎機能）、副作用、処方日数 <b>【提供方法】</b> 自施設 <b>【利用範囲】</b> 自施設 <b>【情報管理責任者】</b> 郷 真貴子 <b>【拒否機会の保障】</b> 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する
対象疾患	・EGFR 遺伝子変異陽性の手術不能又は再発非小細胞肺癌 ・EGFR 遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌における術後補助療法 ・EGFR 遺伝子変異陽性の切除不能な局所進行の非小細胞肺癌における根治的化学放射線療法後の維持療法
研究責任者	薬剤部 郷 真貴子
承認年月	2026 年 1 月

研 究 課 題 名	硬性鏡下インターベンションにおける VV-ECMO 併用を行った症例
-----------	------------------------------------

	の臨床的特徴の検討
研 究 の 内 容	<p>【目的】</p> <p>VV-ECMO の併用が必要な症例の特徴を検討する。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●対象となる患者さん</li> </ul> <p>西暦 2013 年 4 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日までの間で大垣市民病院において硬性鏡処置を受けた全ての患者。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●利用する検体、カルテ情報</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 臨床所見（年齢、性別、身長、体重、病歴に関する情報、癌種、気道の狭窄率）</li> <li>② VV-ECMO 併用の有無</li> <li>③ 転帰</li> </ol> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 安藤守恭</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	人工呼吸管理を受けた患者
研究責任者	呼吸器内科 安藤守恭
承認年月	2026 年 1 月

研 究 課 題 名	経皮的僧帽弁接合不全修復術（TEER）前後における左室内エネルギー損失の変化に関する研究
研 究 の 内 容	<p>【目的】</p> <p>僧帽弁閉鎖不全症に対して経皮的僧帽弁接合不全修復術（TEER）を受けた患者において、術前後の左室内血流動態を評価し、ベクトルフローマッピング（Vector Flow Mapping：VFM）を用いて左室内エネルギー損失の変化とその規定因子を明らかにすることを目的とします。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●対象となる患者さん</li> </ul> <p>2022 年 6 月 1 日から大垣市民病院で TEER を施行された僧帽弁閉鎖不全症の患者さん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●利用する検体、カルテ情報</li> </ul> <p>検体：なし</p> <p>カルテ情報：年齢、性別、診断名、既往歴、治療内容、心エコー検査</p>

	結果（VFM 解析を含む）など <b>【提供方法】</b> 自施設 <b>【利用範囲】</b> 自施設 <b>【情報管理責任者】</b> 荒尾 嘉人、森島 逸郎 <b>【拒否機会の保障】</b> 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する
対象疾患	僧帽弁閉鎖不全症
研究責任者	循環器内科 荒尾嘉人、森島 逸郎
承認年月	2026 年 1 月

\*公開にあたり、事務局にて記載内容を一部修正させていただくことがあります。